

5 学校の様子

明治末期から大正にかけて学校施設の拡充が行われたのは、日本の経済機構の形成につれて、精道村がいち早く阪神間の近郊地として発展を示しはじめた時期であり、児童数も急速に増加したためです。

日露戦争前後の経済の発展は、精道村内の教育熱の高まりとともに、精道校内に実業教育の場として明治36年4月に裁

縫学校が、幼児教育の場として44年10月に村立幼稚園が設置されました。なお私立幼稚園も大正11年に愛光幼稚園、甲陽幼稚園が設けられました。

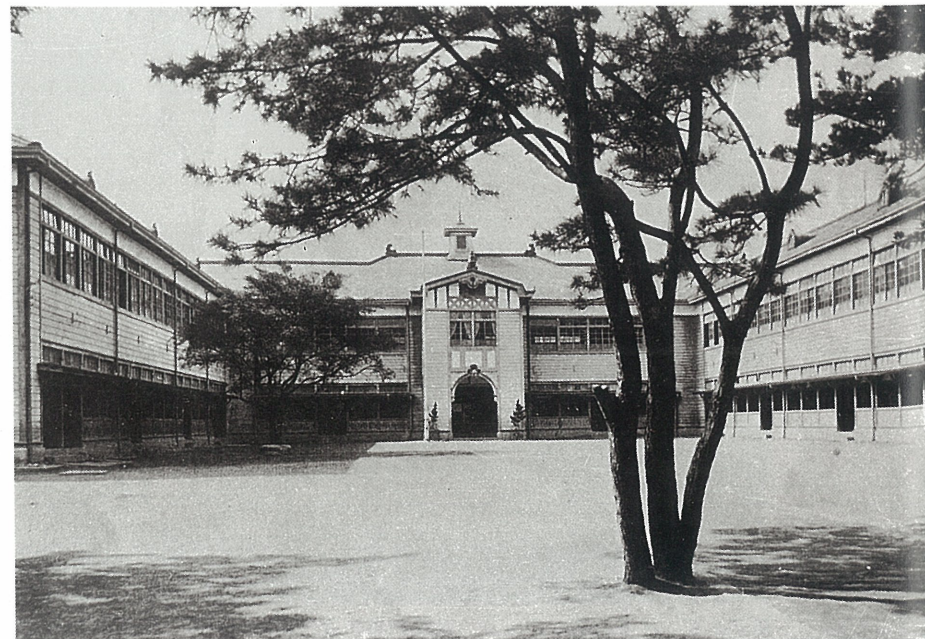
児童数も急速に増加し、明治5年の児童数32人が42年には551人に、大正8年には、1,238人に増加し、教育費も村費中、年々高い比率を占めるようになりました。



大正5年ごろの精道小学校



精道小学校開校当時の校舎 中央が明治19年に建てられた最初の校舎 明治19年、小学校令が公布され、開森橋西詰にあった芦屋小学校は、菟原郡第9番学区精道小学校と改称され、現在地に新築移転した。校名の「精道」は西宮の漢学者豊田政苗氏が「養精修道」の語から撰したものとされる。



新築の精道小学校校舎 大正8年建築



宮川小学校（現県立芦屋高校校舎） 昭和2年開校（写真は昭和初期）



岩園小学校校舎全景 昭和9年開校（写真は昭和18年ごろ）



竣工成った山手小学校 昭和9年開校



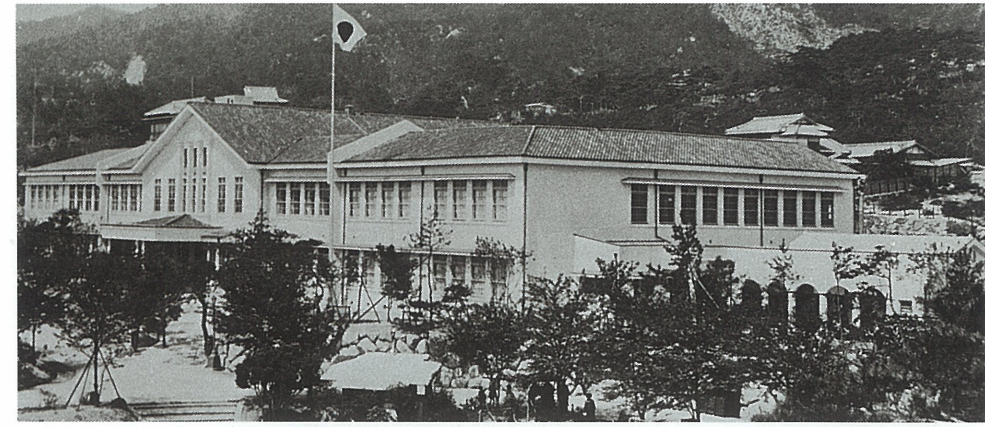
精道幼稚園 大正13年3月 幼児教育として明治44年10月、精道村立幼稚園が設立され、大正13年には、鉄筋コンクリート校舎の教室が新築された。



宮川幼稚園 昭和9年に宮川、山手、岩園の各幼稚園が開設された（写真は昭和13年撮影）。



兵庫県立芦屋中学校 現在の県立芦屋高校、昭和15年2月設立され4月から岩園小学校の一部を仮校舎として開校。



芦屋高等女学校 昭和11年10月、財団法人「芦屋啓成会」が組織され、同12年六麓荘に開校（現在の芦屋大学附属高等学校）。



芦屋児童の村小学校 大正14年御影町（神戸市）に設立され、翌15年芦屋字前田に移転した。このときの児童数は38人。昭和13年廃校までこの地にあった。



芦屋児童の村小学校（昭和3年撮影）1教室ごとに別棟建の住宅式を採用、家庭的平和的な愛の学園を校風とした。



三田谷治療教育院 精神薄弱児、病虚弱児などの保護・教育のため、故三田谷啓氏が昭和2年に開設。同13年3月には、児童の村小学校を三田谷治療教育院付設とし、当院へ移転した。その後、私立翠ヶ丘尋常小学校と改称し、現在に至っている。写真は昭和4年、国道2号から学園の展覧会に集う人びと。